

令和5年第11回

羅臼町教育委員会議事録

令和5年第11回羅臼町教育委員会

1 日 時 令和5年10月25日(水) 13時30分～14時50分

2 場 所 羅臼町役場 3階 5・6会議室

3 出席者

教育長	石 崎 佳 典
委 員	葛 西 良 浩
委 員	芦 崎 拓 也
委 員	佐々木 美 穂
委 員	小 林 真裕子
教育指導主幹	横 澤 英 三
学務課長	平 田 充
社会教育課長	野 田 泰 寿
総務管理係長	櫻 庭 千 尋

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 題

議案 第17号	令和5年度準要保護児童・生徒の認定について
報告 第18号	羅臼町教育委員会教育長職務代理者の指名について
報告 第19号	諸会議・諸行事について

7 その他

(1) 教育指導主幹通信について

【開 会】

○石崎教育長

令和5年第11回教育委員会を開催致します。

羅臼岳も雪が降り、本格的な冬を迎えようとしています。季節の変わり目になりますので、皆様方には健康に留意していただきたいと思います。今年の冬は暖冬になり、雪が少ないのではないかとされています。暑い夏でしたので、過ごしやすい冬になればいいと思っています。

本日の第11回教育委員会から、新たに教育委員に就任された小林真裕子さんに出席いただいています。これまで教育委員を務めていただきました萬屋委員の後任として、小林委員をお願いしたところです。小林委員は、令和5年10月1日就任ですが、10月2日の月曜日に、町長が不在のため副町長から辞令を交付させていただきました。昨年度は羅臼幼稚園のPTA会長、また、昨年度からは羅臼高校のPTA会長に就かれています。年度途中での教育委員就任になりますので、今年度末までは高校のPTA会長を務められることになっています。就任していただく中で、子育てのほか、昆布漁を営んでのご家庭であり、ご主人も様々な事業を展開されているということで、会議の出席が難しくなる時期があることを心配されていましたが、幼稚園と高校でのPTA役員の経験や、子育てをしている中でのご意見をいただきたいという思いからお願いし教育委員に就任していただきました。みなさん、羅臼町の町民ですので、昆布漁や最盛期を迎えている定置網漁など、大変な時期もあると思いますが、事情に合わせて会議に出席していただければと思います。小林委員は、本日が初めての会議になりますが、4年間よろしくお願い致します。

会議に入らせていただきます。委員のみなさん全員出席ですので、会議は成立となります。議事録署名委員の指名ですが、小林委員が初めての出席ですので、順番としては、葛西委員、芦崎委員、佐々木委員、小林委員の順で指名させていただきたいと思います。今回につきましては、葛西委員と芦崎委員をお願いしたいと思います。次回は、佐々木委員と小林委員をお願いしようと思いますのでよろしくお願い致します。

議事の確認をさせていただきます。事前に配布している報告事項、報告第18号、報告第19号に加え、本日1件の協議事項、議案第17号を追加し、3件とさせていただきます。報告第18号「羅臼町教育委員会教育長職務代理者指名について」、報告第19号「諸会議・諸行事について」、追加議案として議案第17号「令和5年度準要保護児童・生徒の認定について」です。

本日追加の議案第17号ですが、羅臼町教育委員会会議規則第8条第1項各号には該当しませんが、個人情報保護の観点から公開しないこととしてよろしいでしょうか。

(各委員、了承)

議案第17号につきましては、公開しないこととします。

議事に入る前に私から、報告させていただきます。

10月1日に羅臼幼稚園の運動会が開催されました。羅臼小学校のグラウンドで開催準備をしていましたが、急な雨と風により、らうすぼで開催されました。コロナ禍においては、屋内での開催を控え、悪天候時には延期をしていましたが、コロナが収まったということで、屋内での開催になりました。来年度以降も、悪天候時には延期をせずに、屋内で開催するという事です。10月6日に給食として羅臼定食が子ども達に提供されました。献立は、イクラ丼、スケソのつみれ汁、鮭の塩焼き、ほうれん草の鮭節和えでした。例年、羅臼漁業協同組合、漁業者の各部会などから食材を提供いただき、子ども達もおおいしくいただいています。10月6日バレーボールのスポーツ少年団が全道大会出場の表敬訪問に来てくれました。町長と私で対応させていただいております。大会結果は全道ベスト8という報告を受けています。10月8日、クナシリ眺望駅伝競走大会が、コロナの影響のほか、悪天候での中止もあり、5年ぶりに開催されました。10チームの参加があり、ゴール会場、中継所は賑わいを見せていました。例年、20から30チーム、多い時には70チームほどの参加がありました。大会が開催できたということで、町民のみなさんからは大きな声援がありましたし、子ども達や役員からは、来年は出場したいという声も聞こえてきており、5年ぶりの開催で10チームという少ない参加ではありましたが、来年につながる大会になったのではないかと考えています。各学校、幼稚園では、発表会が行われています。10月15日は春松小学校の発表会、10月22日は知床未来中学校の学校祭、10月29日には羅臼小学校の発表会が開催されます。春松幼稚園は11月、羅臼幼稚園は12月となっておりますので、お時間があれば見ていただきたいと思います。11月7日に高校生の一斉議会が開催されます。後ほど、教育委員のみなさんにもご案内をさせていただきますので、ご参加していただければと思います。高校生からは、5つの班から12件の質問をいただいています。12件の質問のうち教育委員会に関する質問は6件となっています。高校生からの質問の後に、私が答弁し、再質問があった場合は、担当課長が答弁をするということになります。半分が教育委員会に関する質問ですので、楽しみにしているところです。ご都合がつけば、高校生の一斉議会にご参加をよろしくお願い致します。私からの報告は以上になります。

それでは、議事に入ります。

【議 事】

●報告 第18号 羅臼町教育委員会教育長職務代理者の指名について

○石崎教育長

報告第18号「羅臼町教育委員会教育長職務代理者の指名について」担当から説明をお願いします。

○学務課長

議案の1ページをお願いします。報告第18号「羅臼町教育委員会教育長職務代理者の指名について」です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、教育長職務代理者に次の者を指名したので報告するものであります。法律第13条2項では、教育長に事故があるとき、または、教育長が欠けたときは、予め指名する委員がその職務を行うことと定めており、教育長に事故などがある場合に、事務に支障をきたすことがないように、教育長が予め委員の中から職務代理者を指名することとされております。この規程に基づき、令和5年10月1日付で、葛西委員を職務代理者に指名しましたので報告させていただきます。また、職務代理者が職務を行う場合、具体的な事務の執行については、非常勤である職務代理者が行うことが難しいことから、法律第25条第4項に基づき、学務課長に委任することとしましたので、併せて報告させていただきます。教育長職務代理者の任期についてですが、職務代理者の任期は法律では定められていないことから、教育長が新たに職務代理者を指名するまでを任期とさせていただきます。

○石崎教育長

報告第18号について説明がありました。委員のみなさんから、確認、質問はありませんでしょうか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

これまでは、萬屋委員に職務代理者をお願いしていました。退任に伴う指名になります。葛西委員よろしくお願い致します。

○葛西委員

力不足ではありますが、よろしくお願い致します。

○石崎教育長

報告第18号「羅臼町教育委員会教育長職務代理者の指名について」は、承認されたものと致します。

●報告 第19号 諸会議・諸行事について

○石崎教育長

報告第19号「諸会議・諸行事について」担当から説明をお願いします。

○学務課長

議案の2ページをお願いします。報告第19号「諸会議・諸行事について」です。10月から11月の主な予定について記載しています。学務課の所管事項ですが、11月7日に高校生の一日議会が開催されます。11月27日から29日に、きら星の丸山先生の訪問が予定されています。次回の教育委員会は11月29日となっております。記載はありませんが、11月13日に臨時議会が開催されます。学務課の所管事項は以上です。

○社会教育課長

議案の3ページをお願いします。社会教育課の所管事項ですが、10月8日にクナシリ眺望駅伝競走大会を開催しました。来年度につきましては、1週早めた、10月の第1日曜日、10月6日を予定し、参加者が増えるよう、早めの周知を行いたいと思います。10月26日は、羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会を開催します。内容は部活動の地域移行の関係になります。10月30日は総合文化祭出演団体代表者会議を行います。11月1日はCS羅臼高校地学協働活動部会を設立の予定です。11月14日にはCSコーディネーター会議を開催します。これは、町民向けの勉強会を兼ねた中間発表会を12月16日に行いますので、その打合せのための会議です。11月23日から26日は、らうすぽを会場に総合文化祭を開催します。当初、11月1日から1ヶ月間の展示を予定していた児童生徒美術書道展ですが、総合文化祭と連携して実施するというので、らうすぽ1階会議室を会場に11月24日から26日の期間で開催します。記載はありませんが、11月18日から19日に、東京都の千歳船橋駅前知床物産展が開催されますので、羅臼高校の大漁焼のメンバーが参加する予定になっています。11月27日には、根室市で社会教育委員の研修会があります。テーマについては、青少年の問題行動に関する講演会となっています。

図書館所管事項ですが、総合文化祭で行われる子ども祭りとの連携し、11月26日に本との出会い講座・講演会を開催します。

4ページをお願いします。郷土資料館所管事項になります。知床学の講師として、天方学芸員が羅臼高校で授業を行っています。11月2日には、図書館とのコラボ企画として、星空観察会を計画しています。以上です。

○石崎教育長

報告第19号「諸会議・諸行事について」ご意見、ご質問等ありましたらよろしくお
願いします。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

それでは、報告第19号「諸会議・諸行事について」は承認されました。

●議案 第17号 令和5年度準要保護児童・生徒の認定について

○石崎教育長

追加議案であります、議案第17号「令和5年度準要保護児童・生徒の認定について」担当から説明をお願いします。

非 公 開

○石崎教育長

議案第17号「令和5年度準要保護児童・生徒の認定について」は可決とします。
以上で議事は終了します。

【その他】

●教育指導主幹通信について

○石崎教育長

その他として、教育指導主幹通信について説明をお願いします。

○横澤主幹

主幹通信をご覧いただきます。今回は、時報市町村教委に掲載された、ピーター・フランクさんの、「豊かで幸せな人生を送るために」を紹介します。

子ども達にまず伝えたいのは二つ。生きることって素晴らしい、学ぶことって面白いということです。生きることって素晴らしいに同意しても、学ぶことって面白いは首を傾げる人も多いと思う。日本語には、学習と勉強の二つの言葉があり、英語にも同様の意味の learn study がある。前者は、様々な方法で自主的に知識や技能を見に付けること。後者は、強制的に苦勞しながら物事を覚える雰囲気だ。AI 時代の到来もあって、ものすごいペースで変わる世界。小学校で読み書きと計算の基本以外、具体的に何を教えるのかはそこまで重要ではないだろう。遊びながら調べたり、体験しながら覚えたり、AI との対話で学んだりすることで「学ぶってわくわくするほど面白い」とわかれば、学習が好きになる。その気持ちは長い人生、ずっと付いてくる宝物になる。非常に大事になる、身に付けてほしい能力が紹介されています。その一つは数学的思考方。数学をやりながら身に付く問題解決能力、論理的な考え方、嘘と真実の見分け方である。溢れている情報の中から必要な確かなものを選択するのは、容易いことではない。そこで、数学的な考え方が役に立つ。もう一つはコミュニケーション術。いくつかの外国のサイトでも調べたが、コミュニケーションが上手な人は引く手数多である。これこそ、優しい日本人には身に付けやすい。相手の話を笑顔で聞いて、よく相槌を打つのは基本だ。ただし、聞き流してはダメ。目指すのは「聞き上手」である。相手の表情をよく見て、声の変化に気付いたら瞬時に質問をする。言うのは簡単だが、短くて適切な問いを掛けるのは簡単ではない。上手になると、公私問わず評判が上がり友達が増える。そして、いろいろな人に信頼されるようになる。未来を予測するのは難しいけれど、日本人らしく積極的に学習し真面目に働いて、対立をうまく避けて前向きの姿勢を保てば、これからも豊かで幸せな人生を送れるだろうということです。

次に前回お配りしました、全国学力学習状況調査結果概要について説明させていただきます。別冊1小学校の資料をご覧いただきます。1ページ目、2ページ目は前々回ご説明させていただいております。今年、国語、算数は残念ながら全国平均を下回っています。2ページ目は経年の変化を載せています。本日、ご説明するのは、質問紙に関することです。3ページをお願いします。学習に対する興味関心ということで、「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分か

りますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」この質問を国語のほか、算数、英語で同じような質問をしています。6ページ下段の考察をご覧ください。国語、算数ともに「勉強が好き」と回答している児童の割合が全国平均を上回っている。英語に関して「勉強が好き」と回答している児童の割合が、令和3年度より下回っている。英語に関して「勉強が大切」「将来英語を使う生活をしたり、職業につきたい」「学校の授業以外で、英語を使う機会があった」と回答した児童の割合が、全国平均を下回っている。正答率に関わるクロス集計の結果は、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の正答率が高かったということになります。7ページからは、規範意識・自己有用感です。「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」という設問です。考察の結果、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「将来の夢や目標を持っている」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っている。「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童の割合が全校平均を下回っている。また、過去一番低くなっている。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答している児童の割合が、全国平均を下回っている。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している児童は、国語の正答率が高いという傾向になっています。10ページからは生活習慣です。「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という設問です。結果は、「朝食を毎日食べている」と回答している児童の割合が、全国平均を下回っている。国語、算数において、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答している児童の正答率が高くなっています。規則正しい生活をしている子ほど、点数が良い傾向にあります。これは、中学校も同じような傾向にあります。12ページからは家庭学習についてです。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「平日にどれくらい勉強していますか」「休日にどれくらい勉強していますか」という設問です。結果は、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している児童の割合が、全国平均を上回り、国語の正答率が高くなっています。毎年問題になることですが、平日休日ともに、「1時間以上家庭学習をしている」と回答している児童の割合が、全国平均を下回っている。何年も前からですが、家庭学習の時間は全国平均を下回っています。国語では、「平日30分以上家庭学習をしている」と回答している児童、算数では「平日30分以上2時間以内家庭学習をしている」と回答している児童の正答率が高いという傾向があります。14ページからは読書習慣です。「読書は好きですか」「学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらい読書をしますか」「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本

を読んだり、借りたりするために、学校図書館に行きますか」「あなたの家には、どれくらいの本がありますか」という設問です。傾向としては、「平日授業以外で30分以上読書をしている」と回答している児童の割合が、全国平均を下回っている。読書が好きだと回答している児童でも、平日の読書時間は少ない傾向にあるようです。「家庭に本が26冊以上ある」と回答している児童の割合が、全国平均を下回っている。「家庭に本がたくさんある」と回答している児童は、すべての教科の正答率が高い傾向にあります。16ページからは授業についてです。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」「授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか」という設問です。結果は、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答している児童の割合は100%で、全国平均を上回っている。羅臼町が、早くからICT機器を子ども達に持たせている効果が表れていると思います。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した児童の割合は年々減少しているが、全国平均を上回っている。「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っていると同時に、国語、算数とも正答率が高いという傾向があります。18ページからはその他の設問です。今年から加えた設問ですが「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」という設問です。結果は、「学校に行くのが楽しい」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っている。「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答している児童の割合が、平成29年度、平成31年度の調査を大幅に上回っている。「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っているという結果でした。20ページからは両小学校が、全国学力・学習状況調査の結果概要を保護者に報告したものになります。

別冊2中学校の資料をご覧ください。1ページ目、2ページ目は前々回ご説明させていただいた内容です。国語、数学、英語、全国平均をかなり下回っています。2ページ目は経年の変化を載せています。質問紙は3ページからになります。設問内容は小学校と、ほぼ同じ内容になっていますので、考察のみご説明させていただきます。9ページをお願いします。学習に対する興味関心の結果です。国語に関して、「勉強が好き」と回答している生徒の割合が、全国平均を上回っている。数学に関して、「勉強が好き」と回答している生徒、「授業の内容がよくわかる」と回答している生徒の割合が、全国

平均を下回っている。数学に関して、「将来の役に立つ」と回答している生徒の割合が、全国平均を上回っている。英語に関して、否定的な回答をしている生徒の割合が、全国平均を上回っていますので、英語に関する興味関心、勉強が好きかというところを伸ばす必要があると思います。「数学の勉強が好き」と回答している生徒は、すべての教科で正答率が高い。英語に関して、「授業以外で使う機会がある」と回答した生徒は、英語の正答率が高いという結果です。次に、規範意識・自己有用感です。12ページをお願いします。「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「友達関係に満足している」と回答している生徒の割合が、全国平均を下回っているという結果ですので課題です。「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合が100%で全国平均を上回っている。正答率が高い生徒の方が「友人関係に満足していない」と回答している割合が高い傾向にあるということです。興味深い結果だと思います。14ページの生活習慣の結果をお願いします。「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に起きている」と回答した生徒の割合が、全国平均を下回っている。規則正しい生活を送っている生徒は、小学校と同じように、すべての教科で正答率が高くなっています。16ページの家庭学習の結果をお願いします。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している生徒の割合は過去最低で、また全国を下回っている。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している生徒は、国語と数学の正答率が高い傾向にあります。自分で計画を立てて勉強をすることは大切だということです。例年とほぼ同じ結果ですが、平日休日ともに「1時間以上家庭学習をしている」と回答している生徒の割合が、全国平均を下回っている。また、「全くしない」と回答している生徒の割合が、全国平均を上回っている。毎年、課題になっていることですので、家庭学習の方法について定着させなければならないと思います。国語と数学では、「平日1時間以上家庭学習をしている」と回答している生徒の正答率が高くなっています。18ページの読書週間の結果をお願いします。「読書が好き」と回答している生徒の割合が、全国平均を上回っている。「読書が好き」と回答している生徒は、すべての教科で正答率が高くなっています。「読書が好き」と回答していても、「平日授業以外で30分以上読書をしている」と回答している生徒の割合が、全国平均を下回っているという結果です。20ページの授業の結果をお願いします。すべての設問において、肯定的な回答をしている生徒の割合が、全国平均を下回っており、設問40「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」以外は、年々その割合が低くなっている。授業の改善をする余地があると思います。23ページのその他の結果をお願いします。「すべての設問で肯定的な回答をしている生徒の割合が、全国平均を下回っている」「学校に行くのが楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している生徒は、数学と英語の正答率が高い。

「学校の部活動に参加している」と回答している生徒は、すべての教科で正答率が高い。また、その傾向は「文化部に参加している」と回答している生徒の方がより強くみられるという結果です。24ページ以降は、全国学力・学習状況調査の結果概要を保護者に報告したのになります。

主幹通信の裏面をお願いします。9月27日に第2回E B E協議会が開催されました。E B Eとは、根拠に基づく教育という意味になります。その協議会で、全国学力学習状況調査の根室管内の平均正答率が示されました。管内平均も全国平均を下回っている状況にあり、特に中学校の方がその傾向が顕著になっています。小学校の方も、今年は低いと思います。授業改善の方向性として、次のようなことが言われました。知識及び技能を活用しながら、より深く理解していく学習活動。児童生徒が主体的に、問題発見・解決の過程を遂行していく学習活動。理解したことと自分の考えや経験とを比較したり、関連付けたりする学習活動。他者の説明を解釈したり、正確な表現に修正したりする学習活動が必要と言われています。学力向上の取組の方向性としては、児童生徒一人一人が授業の内容がよくわかると実感できる授業づくり。質問紙調査の項目の内容を参考にした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善。家庭での学習方法等の具体例を挙げたり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりする指導の積み重ね。1人1台端末を活用して児童生徒の様々な学習の状況や興味・関心に柔軟に対応していくことが必要と言われています。先ほど、国語が好きと回答していても、点数に結びついていないということが、管内的にも同じような傾向があり、根室管内の課題ということになります。授業が分かっている、全国との平均正答率の差が広がっています。分かっている、全国の正答率を大きく下回るというズレが見られます。どうしてこのようなズレが見られるのかということで、児童生徒による考え方の個人差はないか。児童生徒の実態に合わせて、定期テスト等を含め評価基準を下げてはいないか。これは、私にも心当たりがあります。定期テストを作る時に、平均点が6割になるように作っていました。実態は、平均点が6割の学年と、6割にとどかない学年があります。問題をやや簡単にし、平均点が6割になるようにすることもあります。簡単な定期テストで、7割、8割の点を取り、自分は勉強が分かっていると思込んでしまうと、授業がよく分かると回答しても、全国水準のテストをしたときに、正答率が低くなるという傾向があるということです。そこを改めるということで、特に中学校の先生方には、テストの作り方が、この協議会で提示されています。単元や本時において、何を、どのようにできたらよいか児童生徒と共有できているか。児童生徒の頑張りや変容を価値づけているものの、評価規準を達成した姿を評価しているかということで、本当に全国水準の学力が身に付いているかを評価しなければなりません。先生方は、子ども達の頑張りの部分から評価を上を設定する可能性があります。求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学習指導要領解説等を根拠とした授業づくりができているかということで、先生方には学習指導要領解説等を読み込んでもらい、授

業を行ってほしいと言われております。

○石崎教育長

教育指導主幹から報告がありました。主幹通信と、全国学力学習状況調査の結果概要について、ご意見、ご質問等ありましたらよろしく申し上げます。

こうした結果と分析をしっかりとした中で、一貫教の学力向上部会で、分析結果から今後の授業をどうしていくかということをも学力向上の羅臼プランに反映し、提言しているということになります。非常に細かく、学力学習状況調査の結果については、クロス集計として、学力と生活習慣の関係が分析されています。主幹からもありましたが、家庭学習の定着というのが、羅臼町では課題になっています。E B E協議会の報告の中で、ズレが見られるということですが、毎年このようなズレがあるという傾向だったということですか。

○横澤主幹

毎年、ズレはあります。児童生徒が、自分自身のことをよく分かっていないのかと思っていましたが、今回の結果を見て分かりました。テストを簡単にしている傾向もあると思います。中学校の先生方の刺激になったと思います。

○石崎教育長

結果だけを見ると、国語が好きだという回答が多く、いい授業が行われていると思いましたが、しっかりと分析をすれば、ズレが見られるということが分かりました。

○佐々木委員

宿題の出し方ですが、それぞれの先生にまかされていますか。

○横澤主幹

中学校では、宿題がありません。自分で計画を立てて家庭学習をすることになっています。中学校は今年から定期テストを減らし、単元テストを多く行っています。小学校でも単元テストを行っていますが、その単元が終わった直後に単元テストを行う傾向があります。終わった直後であれば点数は取れますが、意図的に、2週間後、3週間後に単元テストを行うと点数が下がります。その方法を中学校でも応用することで、テストまでの期間、勉強をする時間が増えるのではないかと思います。小学校から提言があり、中学校でも、取り組むよう話をしています。どの程度効果が出るかは分かりませんが、期待している取り組みです。

○石崎教育長

宿題というよりは、自主的に取り組ませる方法を含めての単元テストになると思います。高校でも、今年度から定期テストを無くし、単元テストにしています。単元テストにする意図が、しっかりと、高校で持っていて、子ども達もそれに向けて学習しているということです。直近では覚えていても、2週間後、3週間後に、学んだ知識を定着させるため、家庭学習が必要になります。小学校時代から、習慣として家庭学習が定着してほしいと思います。

○葛西委員

学校の授業も、自主的に学ぶ方向性が見えてきていますので、それを定着していけば、家庭学習が習慣になっていくと思います。黒板に向かつての授業と、自主的に学ぶことにギャップはありますか。

○横澤主幹

羅臼小学校で、自由進度学習に取り組み始めています。子ども達が、例えば三角形を学ぶ単元であれば、自分で計画を立てて、タブレットを使っても、教科書を使ってもいい。場所は、教室でも、図書室でも、廊下でもいいとして、自分で計画を立てて学習し、学習する力を身につけていく方法を試しています。全ての教科、単元では出来ませんので、一部の単元で取り組んでいます。春松小学校も、取り組むための準備をしています。来年度、自由進度学習発祥の地である山形県天童市に視察に行き、実際に見て学んできたいと思っています。

○葛西委員

先日の学校訪問で自由進度学習に取り組んでいたのは、羅臼小学校の何年生ですか。

○横澤主幹

羅臼小学校の6年生です。

○葛西委員

来年度、同じ質問紙の内容を、中学生になった現在の6年生に投げかけた時に、違いが出るのかなと思います。

○石崎教育長

自由進度学習に取り組んでいる川北小学校と、網走の白鳥台小学校に先生方が視察に行き学んでいます。自由進度学習にも様々な形がありますので、先生方はいい授業にするため学んでくれています。

○横澤主幹

自由進度学習は中学校にも応用できると思っています。

○石崎教育長

小学校での学び方を中学校でも続けていくと効果が出てくると思います。

○横澤主幹

私は、中学校で社会を教えていました。中学校の社会では、自由進度学習に取り組みやすいと思います。

○石崎教育長

学力については、全体的な底上げが必要だと思います。

○学務課長

学力の底上げについてですが、学校の先生だけではなく、社会教育からの視点も含めて、読書と学力について、図書館司書と話をしました。羅臼町の子ども達が、家庭学習をしているかということと、羅臼町に移住してきた大人の方が、子どもの頃に、どのような学習をしてきたかを話していくと、生活の仕方が違って、全員というわけではありませんが、移住してきた方々は、宿題のほかに、家庭学習をしてきたということです。中学生になると将来の職業を想像して、その職業に就くために勉強していたということです。羅臼町の子ども達は、高校を卒業した時の学力で、何の職業に就けるのかを選択しているのではないかと感じています。羅臼高校は連携型入試のため試験はありませんが、入学後に、現在の3年生は60点満点の5教科で300点、1年生と2年生は100点満点の5教科で500点というテストを受けています。3年生で半分以上の点を取った生徒はいませんでした。2年生で半分以上の点を取った生徒は知床未来中学校出身者18名中2名でした。今年の1年生18名については、半分以上の点を取った生徒は1名でした。この結果から、学力が低い生徒が羅臼高校に進学していると感じています。例えば、将来先生になりたいのであれば、大学に行くこととなりますので、将来に向けて勉強をしたいと思います。現状の学力で、何の職業に就こうかと悩んでいる生徒が多いのではないかと感じているところです。

○佐々木委員

子どもの頃に将来の夢を持っていると思います。もう少し踏み込んだ、将来どんな職業に就きたいかを問い掛ける授業はありますか。

○横澤主幹

キャリア教育として、どこの学校でも取り組んでいます。

○佐々木委員

キャリア教育は何年生が対象ですか。

○横澤主幹

小学校1年生から中学校3年生までです。授業の内容は決まっています。

○芦崎委員

中学校で学力の高い生徒は、町外の高校に進学しているということですか。

○学務課長

それもあと思っています。

○芦崎委員

町外の高校を志望している生徒は、自主的に勉強していると思います。羅臼高校に進学する場合、入試が無いため、勉強して学力を積み上げていく必要性が低いのではないかと思います。

○小林委員

家庭の事情で高校を選択している生徒もいると思います。

○学務課長

中学生で家庭学習の習慣が無いのは、小学生の時から家庭学習をやっていないからだと思います。小学生の時に宿題はやっても、自主的に計画的に家庭学習をする習慣がないので、中学生になっても家庭学習をやらないですし、習慣が無いと、やり方が分からないという生徒もいると思います。

○芦崎委員

家庭学習に強制力はありませんので、家庭ごとのやり方になると思います。

○佐々木委員

先ほど学務課長からありました図書との関りの中で、家庭学習の習慣までつけなくても、少しでも読書の習慣をつけ、本を読むことによって国語の学力が上がるといった、きっかけを作ることができればいいと思います。

○学務課長

図書館司書と、読書との関りについて取り組みを進め、変化があるかを見ていきたいと話しています。

○芦崎委員

羅臼町、羅臼町教育委員会として羅臼高校に海外留学などの魅力化支援を行っていると思います。羅臼高校入学時の学力を考えた時に、ハードルが高い内容になっているのではないかと思います。

○佐々木委員

今の中学3年生で、羅臼高校の海外留学を目標に頑張っている生徒がいると聞いています。町外の高校にも海外留学の支援はあると思いますが、海外留学の支援は人数に限りががありますので、目標にしている生徒が少ない、羅臼高校を選択するという考えのようです。そこも羅臼高校の魅力になると思います。

○芦崎委員

将来なりたい職業があれば自主的に勉強をすると思いますが、高校入試が無いため、勉強をする目的が無いまま過ごしている生徒もいると思います。

○学務課長

正確な数字ではありませんが、入試が無い連携型入試の高校は29校です。全国的にはたくさんあると思います。入試が無いからといって、点数が低いかというと、そうではありません。先ほども話しましたが、中学生の時に将来何になりたいかをしっかりと持ち、入試がある、入試が無いということではなく、将来のために勉強するという考えだと思います。そうは思いたくありませんが、羅臼町の子ども達は、入試が無いから勉強せず、夢が無いまま羅臼高校に通学しているのかと思ってしまいます。

○芦崎委員

全国学力学習状況調査では、小学生のうちは学力がついていますが、中学生になると、学力が低下しています。高校生になってからの学力はどうかというところで、中学校3年間の学習が大切だと感じます。

○学務課長

高校に入学してから、卒業するまでの学力は分かりません。

○葛西委員

平均点ですので、学力が高い生徒が町外の高校に進学すると平均点は下がると思います。私達の時代とは変わっていると思いますが、ある程度、親が家に居て、勉強をするよう言われてきましたが、今は共働きの家庭も多く、子ども達は楽な方に進んでしまうこともあると思います。羅臼高校の魅力化ということであれば、全員一律というよりは、ある程度のラインを引いて、そこをクリアした生徒が支援を受けられるとなれば、親の考え方も変わってくると思います。

○芦崎委員

中学生はタブレットを使用していますか。

○横澤主幹

使用しています。

○芦崎委員

持ち帰ることは可能ですか。

○横澤主幹

持ち帰ることは可能です。

○芦崎委員

宿題や課題は、タブレットで取り組むことはできますか。

○横澤主幹

できると思います。

○芦崎委員

タブレットであれば、宿題や課題をやったか、やらないかが、すぐに分かると思いますし、バスで通学している生徒は、通学移動中に勉強ができると思います。勉強時間の創出にもなると思います。

○学務課長

毎年、全国学力学習状況調査の結果が低いという話になりますが、先生方の指導力が低いのかというと、そうではなく、家庭学習の定着ができていないためだと思います。家庭学習の定着をさせるのは、保護者だと思います。

○葛西委員

やることが一緒でも、家庭学習という呼び方を変えるだけでも変化があるかもしれません。例えば家庭での自由進度学習などでもいいのかもしれませんが。

○芦崎委員

自由進度学習を宿題や家庭学習に発展していけばいいと思います。

○葛西委員

先ほど、読書をすれば正答率が上がるという説明がありましたので、読書を取り入れていけばいいと思います。

○芦崎委員

タブレットで本は読めますか。

○横澤主幹

読めますが、入れていません。

○芦崎委員

タブレットを使い、バス通学中にも読書ができればいいと思います。

○学務課長

高校入学後のテストでは半数の生徒が500点満点で2桁の点数です。家庭で保護者は、子どものテストの点数を見ていないのかと思います。

○小林委員

保護者は確認をして印鑑を押す仕組みになっていますので、みなさん確認していると思います。

○学務課長

高校に入学してすぐのテストの結果は高くありません。普段のテストでは、このテストよりも低いのかもしれません。

○芦崎委員

入試のための勉強をしていないからだと思います。

○小林委員

不合格にならないという面もあると思います。絶対に入学できるため、勉強をしないという話は聞いたことがあります。

○社会教育課長

将来、何になりたいかを持っていないからだと思います。

○佐々木委員

不合格になる可能性があるということが、勉強をする動機の一つになると思います。

○芦崎委員

数年前に、羅臼高校が閉校するという噂がでたときに、当時の中学3年生は勉強しました。

○佐々木委員

連携型のままで入試を行うことは可能ですか。

○学務課長

連携型でも、入試を行うことに問題はありません。

○佐々木委員

入試をすることにできませんか。

○学務課長

入試をしても、定員割れのため、全員が合格になります。

○佐々木委員

先ほど、芦崎委員の話にもあったように、ある程度のラインを決め、入試の結果により、受けられる支援が増えるというのも方法ではないでしょうか。

○芦崎委員

ほかの地域の高校では、成績が優秀であれば学費等が免除になる制度があります。保護者の経済的な負担も減りますし、将来について親と子がどこまで話しているかが大切になってくると思います。

○石崎教育長

佐々木委員のお話にもありましたが、キャリア教育をしっかりと取り組むことで、変えていける可能性があると思います。高校入学後のテストは結果でしかありません。学力学習状況調査も低いですが、突き詰めていくと、高校に入学するためというよりは、自分が将来、何になりたいかといったところで、どうしていくかです。例えば、先生になりたいのであれば、北海道教育大学釧路校を目指すことになりますし、プロ野球選手になりたいのであれば、勉強以外の努力もすると思います。

○葛西委員

キャリア教育も、自由進度学習として自分で調べるようにした方がいいかもしれません。

○芦崎委員

町内の業者で行っている職業体験も、キャリア教育ですか。

○社会教育課長

そうです。

○芦崎委員

その部分が弱いと思います。町内の職業体験だけでは限られていますし、中学生のうちに、町外の様々な職業の人を紹介して、授業ができた方がいいと思います。

○石崎教育長

キャリア教育には、キャリアノートというものがあり、来年の自分はどうなっていたい、将来の自分はどうなっていたいと経年で取り組んでいます。例えば、小学校3年生の時には、宇宙飛行士になりたいと思っていたけれども、小学校6年生になって夢が変わり、夢に向かって自分は何をしなければいけないのかというノートをしっかりと持って取り組んでいます。職業体験というのは、職業を選ぶためのものでもありますが、外部評価委員から伝えられたのは、小中学生が職業体験をして、その職業に就くことは少なく、地域の職業を体験して、信念を持って頑張っている大人と触れ合うことが大切なのではないかと言われています。いろいろな人の意見を聞くと、選択の幅も広がりますので、芦崎委員が言われたとおり、様々なメニューを用意していくことが必要になると思います。

○芦崎委員

外からの刺激が足りないのかもしれません。いろいろな人の話を聞く機会がもっと

あればいいと思います。

○石崎教育長

海洋教育では、高知県から講師を招聘するなど、小中学生が様々な話を聞く機会を作る取り組みを教育委員会や学校でも行っています。

たくさんのご意見ありがとうございます。教育主幹からの報告について、ほかにご意見などはありますでしょうか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

教育指導主幹通信については、以上とさせていただきます。

事務局から、連絡事項などありましたらお願いします。

○学務課長

10月31日(火)午後3時から役場で、総合教育会議を予定しています。内容は、羅臼高校についてです。

(4名中2名が出席することができない。)

○学務課長

委員の皆さんのご都合を確認させてください。

(11月6日の週であれば問題ない。)

○学務課長

総合教育会議については、再度日程調整をしてご連絡させていただきます。

11月7日(火)午前10時から、高校生の一日議会が開催されますので、ご出席願います。

○石崎教育長

総合教育会議と、高校生の一日議会、それぞれよろしくお願い致します。学務課長からもありましたとおり、総合教育会議は、前回の教育委員会で話し合われた、高校の存続、魅力化の内容について、町長と教育委員会での意見交換になりますので、よろしくお願い致します。

以上で、予定されていた会議日程は全て終了しましたので、第11回教育委員会を終

了させていただきます。本日はありがとうございました。